

リニア駅周辺整備に関する市民説明会の報告

平成 29 年 5 月 14 日 (日) 午後 6 時～

会場：飯田市公民館

1 「リニア駅周辺整備基本計画（案）」説明（佐藤副市長）

<市民からの発言・意見及び回答>

- ・今も混雑している国道 153 号と座光寺上郷道路の交差点が、信号による平面交差点となる。上伊那、下伊那北部からも人が来て混雑が倍増し、大渋滞が予想される。このため立体交差とし、将来は喬木村方面に延ばして三遠南信道路に繋がるよう計画してほしい。
- ⇒国道 153 号は拡幅する計画で、片側 2 車線となるので、現在のような渋滞は発生せず、交通量を計算して平面交差ができるとしている。喬木方面へ延伸するかどうかは未定。
- ・乗換新駅がリニア駅から離れたところに計画されているため、リニア本線と JR 飯田線が交差するところに新駅を建設してほしい。本線沿いの通路で駅から出ることなく移動でき、眺望の良い、高い位置に駅を作れば、景観的にも良いのではないか。
- ⇒交差位置に乗換駅を作ることは、諸条件により現時点では難しい。リニア駅から近く、JR 飯田線沿線の出来るだけ平らな場所に計画している。
- ・コンコースが 1 階はなく、2 階の方が使い勝手が良いのではないか。駐車場に囲まれた駅になっており、景観と言われても北側は壁があり、南側は建物が建っている。
- ⇒コンコースは JR 側の制限により 1 階となっており、変更できない。VR については詳細を書き込んでおらず、演出やデザインをどうするかはこれからの検討課題である。

2 パネルディスカッション 「リニアへの期待 交流人口拡大につながる魅力づくり」

コーディネーター：大西達也氏

パネリスト：後藤高一氏、鈴木志保氏、太田いく子氏、佐藤副市長

<コーディネーター（大西先生）の発言>

- ・交流人口拡大とは、例えば観光やスポーツ、ビジネスで来るような人を増やすということである。里帰りの人を増やすことも交流人口を増やすことになる。
- ・一方で、受け入れる側の人でも増やす必要がある。例えば、千人の人々が受け入れを行うとなれば、すごいことになる。
- ・2027年では遅く、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに世界中から人が来る。その人たちにこの地域に来てもらえるように、あと3年で自分の持っている物を磨き上げてほしい。

<パネリストの発言>

後藤高一氏（NPO 国際りんご・シードル振興会 理事長）

- ・2013年から6名でりんご・シードルによりこの地域に貢献することを考え、飯田をその聖地とすることを目指している。この活動で地域連携と人の交流ができると考えており、シードルを通じて天竜川全域をとらえてブランディング、地域づくりをしていきたい。
- ・りんごがアドバンテージとなっている。この地域のシードルを求めて人に来てもらいたい。
- ・2027年に向けて、醸造所を飯田に立ち上げたい。駅とのつながりの中で魅力を伝え、本物に誘える物を駅に置きたい。駅に醸造所があったら良い。飯田は醸造と発酵の街と思っている。

鈴木志保氏（(有) 肉の鈴木屋）

- ・ 遠山郷で肉屋を営んでおり、「遠山ジンギス」肉で交流人口を拡大している。
- ・ 伊那谷をきちんと説明ができるか。外から見ると分からないと思う。伊那谷がどういう所かを知ってもらうことが重要で、その努力が交流人口拡大につながると思う。
- ・ リニアが横糸なら縦糸が重要で、縦は飯田線で考える必要がある。(三都物語・・・飯田、駒ヶ根、伊那の3つの都市を肉でつなぐ)
- ・ 10年後には、遠山郷の人口は1,000人を切っているかもしれないが、交流人口はそれよりも多くしたい。
- ・ 人口が少ないと全員が活躍しないといけない。会社もそういう力をつけて、今ある物の磨きをかけていきたい。

太田いく子氏（農家民宿 ふれあい農園おおた）

- ・ 22、23年前から都市と農村の交流を始めた。25年前に人口減少からグリーンツーリズムを勉強し、「ふれあい」「滞在型農業」をテーマに、中学生の農業体験の受け入れとして平成10年に1校120名の農家民泊を始めた。
- ・ 農家民泊は農業の荒廃を止める。田舎のセラピー効果は抜群である。
- ・ 今は、千代だけで千人超/年の受け入れており、これを20年続けている。
- ・ リニアを使って45分で品川から来る。そうすると努力も魅力も磨く必要がある。通過型でなく、滞在型を目指す。心と心のふれあい、ハートで勝負したい。
- ・ 千代へ来なければ「どぶろくが飲めない」「・・・が食べられない」が重要。今から先を考えようとしている。「よこね田んぼ」の活用による交流を考えている。

佐藤副市長

- ・ 飯田界隈は、松本城のような明確なターゲットがない。人が人を呼ぶという地域がこの地域の魅力。もっと人を呼べるのではないか。
- ・ 一つ一つが大きな物でなくても、日々つなげて行ければ人は呼べる。時間距離が東京近辺と同じになる。東京の人を呼び込み、野底山森林公園や風越山が高尾山と競争できる環境になる。
- ・ 人の魅力で人を呼び込みたい。そのようなことでも時間の壁を破る。来ることに使っていた時間を過ごすことに使ってもらえるようになる。

<発言・意見及び回答>

- ・ 飯田は新しい魅力を造る必要はなく、魅力を再発見していただき、宝として外にアピールすべき。この地域の魅力は、自然の景色、南アルプス、農業・農産物、食・発酵である。
- ・ 公共交通が飯田に全くないことが問題。飯田線は1時間に1本しかなく、バスも待たされる。車しかないという不便さを何とかすべき。飯田線やバスの路線が減らないように、何らかの方法を考えて公共交通が良くなるよう工夫すべきである。
- ⇒二次交通や公共交通の充実は大きな課題の一つと認識しているが、二次交通は飯田市だけではなく、国・県・市・民間がどのように二次交通を作るか検討している段階である。一方で自動運転など10年後にどのような交通環境になっているのか分からない部分があり、柔軟性を持って新しい技術を取り込みたい。
- ・ リニアの駅前に一流アーティストを呼び、展覧会が開ける優れた文化会館が欲しい。